

(一社)世界文化遺産地域連携会議議事録

(2025年8月22日)

井戸（事務局長）

皆さんこんにちは。事務局長の井戸でございます。

それでは、これから一般社団法人・世界文化遺産地域連携会議の2025年度総会を開催させていただきたいと思います。

門川前京都市長が退かれましてから、代表理事が空席になっておりますので、今回は当方が代理でこの会議開催を呼びかけさせていただきました。

この点につき、まずは皆様のご理解、ご了解をいただきたいと思います。

さて、本日の参加者ですが、会には67の市区町村と民間は監事の寺田さんを含め同数の67名のメンバーが参加されています。民間メンバーにつきましては先日メーリングリストでお送りした最新版から、この間、退職された等で継続を辞退された方や何年間か連絡がつかなくなっている方が何名か出てきておりますので、そうした方々を除いた数です。

ということで、会のメンバーは官民ともに67の合計134。

うち本日は、市区町村が委任状・代理出席・オンライン参加含め61団体、同じく民間メンバーのうち59名、合計120の方々にご参加いただいておりますので、定款11条の過半数を満たしております。2年前に定款改訂をしまして議決権は行政と理事が2・民間メンバーが1ということになったんですが、いずれにしても、本日の会議は有効に成立いたします。

なお、本日はオンライン参加含め、21の世界文化遺産の全てから参加をいただいております。会の設立趣旨の1つが情報交流ということですので、今日は特に後半の部で、できるだけ多くの関係者から最近の情報提供や会の活動へのご発言をいただきたいと思います。

では冒頭、私の方から会の新しいメンバーにつきご紹介させていただきます。「佐渡島の金山」の佐渡市さんと「紀伊山地の霊場と参詣道」の新宮市さんが本年度から新しい会のメンバーになってらっしゃいます。

冒頭まず、両市からひと言ご挨拶願います。佐渡市さんからお願いします。

佐渡市（小林）

ご紹介ありがとうございます。佐渡市の観光文化スポーツ部長の小林でございます。皆様多分ご承知おきのことだと思われかもしれませんが、昨年の7月27日に「佐渡島の金山」が世界文化遺産登録されまして、約一年が経過したところでございます。観光客につきましても順調に推移しておりまして、昨年と比較してだいたい2割ぐらい増加しているところでございます。

また二次交通等の課題に関しても、観光庁さんをはじめとする関係省庁さんの補助金等もいただきながら、今のところ問題なく対応できているのかなという風に考えているところでございます。

この場にいらっしゃる地域の皆様と比べ、我々まだ世界遺産地域としては若輩ものでございますので、いろいろ先輩方のご指導等をいただきながら、これから資産の価値を守っていくこと、そして活用していくことも含めて、より良い地域づくりを進めてまいりたいという風に考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

井戸（事務局長）

ありがとうございます。続いて、和歌山県新宮市さん。

新宮市（津越）

和歌山県新宮市の商工観光課長津越と申します。よろしくお願いします。

紀伊山地の霊場と参詣道は昨年、世界遺産登録20周年を迎えまして、特にインバウンドのお客さんがかなり増加している傾向にございます。

この世界文化遺産地域連携会議で色んな皆様のご意見をお聞きしながらご参考にさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

井戸（事務局長）

ありがとうございました。新メンバーのご紹介は以上です。

それではまず本日の議事に入らせていただきます。

議案 1：役員選定

井戸（事務局長）

まず、1年近く空白期間が続いてしまいました会の代表理事についてです。

これにつきましては定款19条により理事の互選ということですので、副代表理事を務めていただいている市町ほかとの調整をおこなってきましたが、残念ながらお引き受けいただける所を見つけることができず、それを受け、民間理事間での話し合いをおこなってきました。

結果、熊倉浩靖理事が「誰も引き受けないなら自分がやってもいいですよ」と言って下さり、それをもって民間理事間の結論に至っております。

さて・・・ここでちょっと振り返って見ますと、会の活動は今年が発足から15年目となります。

やっているのは「世界遺産地域が交流・連携しできることをやろう」ということですので、あっという間の15年間だったような面もありますけれど、一方ではこの間の15年間で様々に情勢が変化している部分がございます。

例えば技術的な面では、特定の日に東京や京都に集まって下さい、難しい所は委任状出して下さい、ということだけでなく、こうやって多くの方々がオンラインで顔を合わせることができるようになりました。

情報発信についても発足当時は、世界遺産を紹介するHPが文化庁にも観光庁にもJNTOにも存在しないような状態でした。

なので、会で作るしかない、ということになりました。

で、どうせ作るならということで、11言語にしたり動画作成にはドローンを使ったりして・・・当初は「すごいね」と言われたものですが、今では翻訳や動画作成の技術が進み、もはや別に何てことのない話になってます。

参加地域の面では、門川元京都市長の呼びかけで会が発足した時期には世界文化遺産は11しかなく、うち5つが関西だったと思います。また当時、広域的に指定されていたのは紀伊山地くらいでした。それで、いずれにせよ関西が

リーダーシップ役を果たすしかないだろうということで、門川さんが代表になられ、当方が事務局役を引き受けて来たという経緯があります。

が、それから１５年が経ち、世界文化遺産数はおよそ倍増、参加市町村数は広域指定が増えたことによって３倍近くになっています。また、門川さんご自身も含め、発足当時の市町村長さんもすでにその多くがバトンタッチを終えてらっしゃいます。加えて各遺産内では、それぞれに登録からの歳月を経て、活動の多くが現場へと移管されてきています。

さて、そんな中・・・この１５年間の一つの成果としては「世界文化遺産の永続的保全とその持続的活用を目指して」ということで、国等に要請をおこなってきたということがあります。

宗田先生からのご提案を受け研究した世界遺産特別法については、世界遺産議連が事実上なくなってしまったこともあって、とてもそこまでは行ってませんが・・・発足当時のことを考えれば、中味やサイズはさておき、世界遺産への国からの支援がだいぶ得られるようになってきた、ということと言えると思います。

出入国税という新たな財源ができたこともあります。本来ならその一部を世界遺産の永続的保全に向けた基金のようなものにできれば理想的なんですけれど・・・いずれにしましても「登録してあげたんだから、あとは各地で頑張ってください」というお話だけではなくて来ています。

ただ、観光との関係の面では、基本的にはいい意味でということなんですけど・・・大きな変化が見られます。

当時は例えば「省庁を横断し世界遺産をもっと大事にして、インバウンド、とりわけ欧米豪対策をやるべきじゃないか？」ということを経済省に迫って来た訳ですが、今はむしろオーバーツーリズム対応に頭を悩ませてらっしゃる地域がいくつも出てきて来てらっしゃるような状況です。

そう言った・・・短いようで長い１５年間で、様々に情勢が変化していることも含めて、本日ももしご異議がなければ、この場をもって正式に熊倉さんをお願いすることを、民間理事を代表してご提案したいのですが、皆さんご異議はございませんでしょうか？

（異議なし）

では熊倉さんに新たな代表理事にご就任いただくということで、決定させていただきたいと思います。それでは熊倉さん、一言ご挨拶をお願いします。

熊倉代表理事

あくまでも代理というか暫定でございまして・・・まあ本来、市町村の首長の方々、あるいは私よりもはるかに世界文化遺産について詳しい方がふさわしいのですが、井戸さんが体調の面も含めて事務局として大変な苦勞をなされているのを傍から見てみると、会を存続するためには、誰かが印鑑を押さなきゃいけないんだらうなということで、あくまでも暫定・代理という形で代表の理事を引き受けさせていただきました。

あまり役に立ちませんが、ぜひ皆様方のご協力をいただいて何とかこの会を存続・発展させていきたいと思いますので、ご協力のほどお願いいたします。

一つ具体的に、ぜひ皆さんにお願いしたいことがございます。副代表理事の皆様方にはそのまま副代表理事を引き続けていただきたいと思います。よろしいでしょうか？

・・・私、嫌だという方いらっしゃらないようなので、是非そのままということをお願いいたします。

井戸（事務局長）

ありがとうございました。ではここからの進行は熊倉代表理事をお願いいたします。

熊倉代表理事

それでは、議案の２・３について井戸さんの方からご説明をお願いいたします。

井戸（事務局長）

お手元資料の１Ｐ後半から５Ｐまでが、昨年度の会の事業報告です。
パワーポイントでもご説明させていただきます。

まずお手元資料では１Ｐの下側、会の活動の第１として、メンバーや地域間の意見・情報・ノウハウの交流を活性化させて行く、ということがございます。

（１）昨年度の総会は、前京都市長からの代表交代ということもありまして、京都市役所「正庁の間」を本部にオンラインで開催しました。

（２）メンバー間のメーリングリストにつきましては、旧来のものが先方都合により昨年度末で廃止となりまして、管理人をお願いしている久保美智代さんに一からの手続きをお願い、新しい所を探していただき無事移転いたしております。

お手元資料の２ページ、（３）の世界遺産サミットは昨年度は残念ながら手を挙げて下さる所がなくて、観光庁ほかと協議した結果、東京ビッグサイトで開催された「ツーリズム EXPO」の一環で、短時間でしたが、１１回目を開催することになりました。

久保美智代さんを総合司会、島川理事をコーディネーターに、平泉町長さん、日光市長さん、富士吉田市長さん、それから吉野町長さん・・・スミマセン。資料からはお名前が抜けております。加えて佐渡市さんによるそれぞれの取り組みが紹介されました。

翌日の見学会は国立西洋美術館、また明治日本の産業革命遺産を展示する産業遺産情報センターなどを回らせていただきました。台東区さん、また明治日本の産業革命遺産ご関係者に大変お世話になりました。

（４）全体の交流会は世界遺産サミット終了後に実施しております。

２の要望活動については会長改選の事情もありましたので、昨年度は実施していません。

資料3ページに行きまして、各種連携事業の推進についてです。

まず(1)熊倉さんの著書「世界文化遺産でたどる日本の歴史」、が、各地の学芸員ほか担当者の皆様にも大変お世話になって、年度末の3月に刊行されております。

(2)一斉清掃活動などの「いい遺産の日プロジェクト」は昨年度も宗像市さんに音頭をとっていただき実施されました。10遺産・16地域が参加されてます。写真は宗像、日光、富士山の三保松原の様子です。

(3)世界遺産スタンプラリーは昨年度より共同事業参加市町村のみでの実施となりましたが、利用者はのべで言うと64万人。設置場所にもよるのですが、最多押印は富岡製糸場の8万5千、次いで紀伊山地の霊場と参詣道が全域の合計で6万7千、厳島神社の宮島観光案内所が4万5千となっています。

スタンプにはHP同様、奥下和彦さんのデザインにより、遺産ごとの一筆書きデザインをこしらえております。厳島神社の例です。スタンプシートはそれぞれの遺産ごとに作っておりまして、これが紀伊山地と日光のスタンプシートです。

資料4ページに行きまして、(4)「世界遺産×一番催事」動画の配信も引き続き実施しました。

東京オリンピックに合わせて、姫路市さんから世界遺産連携イベントをやらないか、というアイデアが出されたことをきっかけに、「日本博」の予算を活用し、11言語で「日本の四季」の素晴らしさを紹介しようということでやりましたが、その「続編」ということです。

写真は春の富士山、奈良の夏の夜、京都は二条城で秋におこなわれた「アートアクアリウム」、冬は姫路城でおこなわれた各遺産を紹介するイルミネーション。そして通年事業として、石見銀山と石見神楽の様子です。

視聴者はほとんどが海外で、各遺産ののべ合計は252万視聴、遺産別では24年度に文化庁の予算を活用できた縄文遺跡群が50万再生ということでトップになっています

5ページに行きまして、国予算関係では昨年度は縄文遺跡群が文化庁の「全国各地の魅力ある文化財活用事業」に採択されたほか、奈良の予算獲得のお手伝いをしてきました。

会活動に直接関係のある縄文遺跡群関係について少しご説明させていただきますと、問題意識としては現状、三内丸山遺跡に来訪者が一極集中してしまっている中、「一口に縄文時代といってもいくつかの時代区分があり、遺産ごとに見どころが違いますよ」と言ったこととか「そこにはどうやって行けばいい」と言ったこととか「こんな可愛い発掘物がある」と言ったことを、各地域が連携し、いったん整理することによって、現状を変える切欠にしたいというのがありました。

まず地図図表左上「定住の開始・発展・成熟」を表すゾーンでは外ヶ浜町の大平（おおだい）山元遺跡からつがる市の亀ヶ岡石器時代遺跡を経て、弘前市内の大森勝山遺跡という風に「開始・発展・成熟」を時系列で見えていただき、同じく左下から右側、大森勝山から秋田県鹿角市の大湯環状列石は「定住の成熟」ゾーン、また右側が仙台方面から岩手県の御所野遺跡、そして青森県に入ってニッ森貝塚から三内丸山に戻る「定住の発展」ゾーンということで、まあ2－3泊すればぐるりと一周することができます。

で、各遺産をクリックいただくと、各市町担当者に自ら登場いただいての遺跡概要や見どころの紹介、以外に公共交通での移動、グルメ、宿泊予約などへのアクセスを紹介し、加えて11言語で過去に作った動画に飛べるようになっているという仕掛けになっています。

昨年度の事業報告は以上です。

ここからは引き続き（議案3）2024年度の決算報告につきご説明させていただきます。

お手元資料6Pの表の左から2つ目の欄が2024年度決算の収入の部でございます。1の市町村会費収入は139万9800円。2023年度から減っているのは一昨年わすれてらっしゃった分を振り込まれた所の分が昨年支払われてるのと、会費を交流会費との合算で振り込まれた市町があったためです。

2の市町村共同事業には全体の3分の1ほどの19市町に参加いただきましてその合計が345万、3の交流会費は支出の部②会議費の2項目めとの見合いです。

4事業収入は先ほどの文化庁「全国各地の魅力ある文化財活用事業」からの997万846円。これも支出の部④の国予算対応の所の見合いとなっています。収入の部5の寄付金は「世界遺産サミット」関係の経費を日本観光振興会が会宛

に入金してくださいましたので、ここに計上しています。

支出の部では③イベント費の中に見合いで含まれてます。

それに銀行利息と一昨年度からの繰越金を合わせまして１６６８万５７５円というのが昨年度の収入合計です。

続いて資料では７Ｐ、支出の部です。

基本的な考え方としては、会にとって最も基礎的な部分、総会開催とか郵送とか要望活動とかHPを作るとかは収入の部１の会費、あと観光や情報発信関係を２の市町村共同事業費、加えて国から獲得できた資金を該当地域と共同事業参加地域中心に世界遺産全体のPRにも充てているという格好になります。

まず支出の部①の要望活動費は昨年度やれなかったということでゼロ。

②の会議費のうち括弧一番上の３０万７９１０円は総会開催費。中味的には会場設営費、資料の印刷郵送料や当日運営を手伝って下さったメンバーの交通宿泊費などがここに含まれています。交流会費はさきほどの収入の部３との見合い。その他打ち合わせ等に要した費用が１３万１４４４円となっています。

③のイベント費用はサミット関係です。使用した映像の編集費、出演者への謝金や旅費交通費、見学会の入場料や移動費ということで、その一部が収入の部５の寄付金との見合いです。

④の広報費は予算策定後に国予算が確定し、その後、それを一部活用して共同事業参加型事業を推進することができました。以外にはHPやネットの使用量が７万９６５４円で合計１００５万５００円。

⑤の事業推進費は従来、国予算対応不能分、例えばタクシー代や８千円だかを超える宿泊費、飲食を伴った打ち合わせ、委員や出演をお願いした方々への謝礼分などをここに計上していましたが、今回はほかの所にそれぞれ計上しましたのでここはゼロ。

その分、佐渡や国予算期間外の東北への出張があつたりもしたもので、⑦の旅費交通費が６０万１６９２円と少しおおきくなっております。

⑥の調査研究費は書籍購入・入場料・研究会参加費などで４７７７０円。⑧の通信費、⑨の消耗品費などは概ね予算の範囲でおさまっています。⑩の地代家賃２万４１２０円は貸金庫代です。予算に多少の余裕が出ましたので、人件費を１６０万円ほどですが、⑪に計上させていただきました。

これに税その他の１６万５８８０円を合わせまして。昨年度の支出合計は１３４４万１９０３円、繰越金を合わせた総計は１６６８万５７５円となりまして、３２３万８６７２円を本年度に繰り越すことができたということになっております。

２０２４年度決算に関するご説明は以上です。

熊倉代表理事

それでは事業の中身と決算報告について少し補足をいただきたいと思いますので、オンラインではなくてリアルで来てくださっているつがる市さんからまず一言、お話しいただけますでしょうか？

つがる市（堀内）

決算報告について特に異議はございません。

熊倉代表理事

会として進められた事業の中味について補足してください。

つがる市（堀内）

先ほど井戸事務局長の方からご説明ありましたように、当地ほかいくつかのこの縄文北海道北東部の縄文遺跡群構成資産の管理団体の自治体が参加いたしました。文化庁の補助金を得て活用事業の方を実施いたしました。

一番目立つ成果と致しましては、入門コース作りということで、周遊のための学習、観光のための入り口となるポータルサイトを目指してのサイトを開設しました。

続きまして、ぜひインバウンドなどの対応も含めたツアーコースの造成、モニターツアーの実施なども継続事業として期待していったところではあったの

ですが、これについてはまだ構想のみにとどまったという点は非常に残念に思っている所です。

来訪者については北海道・北東北の縄文遺跡や関係施設の中でも試算によってばらつきがある所です。当地の亀ヶ岡石器時代遺跡につきましては遮光式土器で知られてますように、もともとの知名度があるかと思えますけれど、登録から4年経ちましても落ち込みというものはなく、順調に推移しているというところではあります。

現在、亀ヶ岡石器時代遺跡の現地の史跡整備に次いで、ガイダンス施設の整備にも来年度から着手をするということとして、今後もそういったハード整備に先駆け、ソフト面での受け入れ体制の整備でもこういったポータルサイトとか、関係の自治体などの連携などにも引き続き力を入れていきたいと思っております。当方からは以上です。

熊倉代表理事

ありがとうございました。拝見させていただいて、世界の他の新石器時代に比べて、農耕・牧畜に移行せずに定住を膨らませていったということを、全世界の人に改めて見ていただきたいと思います。それにふさわしいツアーコースになっていますので、私自身も改めて行って見たいと思っております。ありがとうございました。

次にメーリングリストを預かってくださっている久保美智代さん。

久保美智代（旅する世界遺産研究家）

皆さん、こんにちは。旅する世界遺産研究家の久保美智代と申します。宜しく願いいたします。

井戸さんからの依頼を受けまして、4月からメーリングリストを新システムに移行し、運営を開始いたしました。今、名簿等は私が管理者として行ってお

りますので、もし配信等で不具合がありましたら、ご連絡いただければ私の方で改善を図りますので、お知らせさせていただきたいと思っております。

メーリングリストに関しましては、たくさんの地域の皆さんに参加いただいていますので、それぞれの地域の紹介をしていただいたり、各地でイベントも開催されていると思いますので、そのイベントの紹介であったり、文化遺産地域がこれだけ集まっている会というのは他になかなかないと思いますので、他の地域の皆さんと連携したいというようなご要望や新企画などがあれば、具体的になくても、こういうことしたいんだけどでもいいですし、積極的に情報を発信していただいて・・・で、地域の皆様方でそれに賛同できる方がどんどん集まって、連携しながらいろんなことを幅広く情報交換・実現できる場として活用していただきたいと思っておりますので、どうぞ皆様よろしく願いいたします。

熊倉代表理事

ありがとうございます。続いて、動画の最多視聴言語アドレスの中で、フランスでは34万人もの皆さんに見ていただいているという奈良について辰巳さんの方から、追加のご紹介があればお願いいたしたいと思います。辰巳さんいらっしゃいますか？

辰巳（奈良好き人の会）

奈良の辰巳でございます。先ほど井戸さんからお話があったように、文化庁の助成金をいただくことができて感謝です。奈良は2029年度で登録30周年を迎えますので、奈良の世界遺産がそれに向けての取り組みを今後も深めていきたいと思っております。また色々よろしくお願い申し上げます。以上です。

熊倉代表理事

2028年度のサミット候補としてお願いをいたします。

事業説明について3人の方から補足をいただきました。それではまずここで、寺田さんの方から監査報告をお願いしたいと思います。寺田さん聞こえておりますでしょうか？

寺田 監事

はい、会の幹事をさせていただいてる寺田でございます。

24年度の決算書類を精査させていただきまして、適正に処理されておりましたので、ここでご報告させていただきます。どうもありがとうございます。よろしくお願いします。

熊倉 代表理事

寺田さんにしっかり見ていただいているわけですが、今回の事業報告、決算について、ご質問等ある方があれば、お手を挙げていただきたいと思います。いかがでございましょうか？ご承認をいただくということでよろしいでしょうか？・・・では拍手なり手を挙げていただくなり、それぞれの表情で、オンラインの方もお願いいたします。

(異議なし)

熊倉 代表理事

引き続き事務局に（議案4）2025年度事業計画、（議案5）対応すべき課題、（議案6）2025年度予算案につき一括して説明して下さい。

井戸（事務局長）

それでは本年度の事業計画と予算、また今後の課題につき一括でご説明させていただきます。

（議案４）

本年度の事業計画案については、お手元資料９Ｐです。

１番目の「交流活動」につきましては、サミット・総会・交流会やMLなどを継続し、会の運営や人的交流はもちろん、各地の進んだノウハウの共有に努めていきたいと思います。

今年のサミットは第１２回目となりまして、五箇山の富山県南砺市で開催されます。１１月２９日午後からが分科会、３０日の午前が本会議、その後、午後には白川郷方面も含めたエクスカージョンが組まれております。

後ほど南砺市さんからもご説明いただきますが、皆様ぜひご参加下さい

お手元資料１０Ｐに行きまして、すみません、お手元資料では項目番号が３になってますが、２の間違いです。

各種共同事業推進の面では、まず（１）熊倉代表理事に書いていただいた「世界文化遺産で巡る日本の歴史」を英語版にして書籍化、またHP化して行くことを検討しています。

（２）いい遺産プロジェクトについても引き続き充実を図っていきます。後ほど宗像市さんからも現状のプランなどご提案いただければと思います。

（３）多言語HPについては佐渡市を加え、全体をリニューアルして行くことを考えています。

世界遺産スタンプラリーは市町村共同事業として継続。また、市町村共同事業についてはスタンプラリーに限らず、観光系の事業をこれ中心というか、優先的に展開したいと考えています。

（４）の国予算等についてですが、残念ながら本年度採択されたのは富岡製糸場と白川郷五箇山のシルク連携と、あとは会関係の財政には直接関係ないものとして奈良のたつみさんの所の案件だけでした。

縄文遺跡群の継続、紀伊山地、九州の案件などについても申請はしたんですが、残念ながら採択には至りませんでした。力不足で誠に申し訳なく思っています。

動画については今年は国予算を活用し、富岡製糸場を中心に「シルクをキーワードにした両遺産の旅」につき撮らせていただきたいと思いますと考えています。

11言語動画のほうはこれで12本目。厳島神社と原爆ドームを1本で撮っていますから、13遺産までがカバーできることになります。これまでに撮影済の遺産についてはお手元資料4Pの下側をご覧ください。

国関係につき付け加えますと、ここまで9年連続で何らかの予算は獲得できています。お手元資料は5Pの下側をご覧ください。

「日本博」の時のように、国の予算を世界遺産全体につけてくれるといいんですが、残念ながらそういう仕組みにはなっておらず、どこかの特定遺産と一緒に、他の多くの遺産でも活用できるノウハウを獲得していくことを目指して行く以外ないという格好になっています。

過去の分をご紹介しますと、田辺市さん中心に関係市町村が協力し、熊野古道等、紀伊山地全域で外国人が道に迷わないようにするために100基設置した英語表示版。

原爆ドーム・厳島神社・石見銀山・萩に姫路城を加えて、全国の新幹線主要駅と東京・大阪・名古屋・福岡の主な地下鉄駅で5年間実施したデジタルサイネージ広告の様子です。

世界遺産検定をやってらっしゃる、宮澤さんの世界遺産アカデミーと組んで実施した、世界遺産への貢献を含む「クリーン・ツーリズム」事業。場所は富岡製糸場です。

これは潜伏キリシタンエリアで、地元ですでにあるクリスマス行事を「サイレント・クリスマス」というブランドで海外にも売ってみようという試みです。

いずれにせよ、特定遺産にとどまるのではなく、他の多くの遺産でも活用できるノウハウの獲得を心掛けています。

またその一方では、内部的にはすでに「オーバーツーリズム問題が生じている遺産」もあれば「もう少し頑張れば観光もできるのに」という所など、21ある文化遺産が3つか4つくらいのグループに分かれて来ており、それぞれに

どういふことをするのがお役に立てるのかを考えて行かないといけない、といった時期に来ていると思っています。

(議案5)

さて、議案5、資料11Pの「今後の安定的運営に向けて」ですが、会の現状を包み隠さずご報告させていただきます。

まず、資金面です。24年度から市町村共同事業にご協力いただけるようになり、各市町村には合計500万円程度ご負担いただけるようになりました。事務局にも日光の岡井さんに次長になっていただき、これまでの1名体制が改善されたことによりまして、まずは最低限の事業継続をやって行ける体制は確保できたこととなります。

ただ、それ以外の部分は相変わらず国からの予算を何とか取って来ることで事務局が運営できているような状態です。資金獲得についても色々アドバイスいただいたり、財政改善担当の大社理事にお世話になったりで取り組んで来てはいますが、なかなかまだうまく行っていないというのが現状です。

組織的には活動15年目ということで、特に民間メンバーの皆様は3分の2くらいが発足当時からの方々です。自治体メンバーが順次交代されていく中、これは大変ありがたいことなのですが、裏返せば民間メンバーの多くが15歳歳を重ねたということでもありますから、自分自身も含め高齢化は否めない。ついては新しい、特に若いメンバーへのお声がけも各位にお願いしたいと思います。

次にサミットについて。画面中ほどにある11遺産(京都・和歌山・岩手・石見銀山・姫路・日光・沖縄・富士宮＝コロナにより分科会のみリモート開催・富岡・斑鳩・東京)ではすでに1回ずつ開催しており、無理は言えませんができるだけこの数を21に近づけたいと思っています。

本年度は南砺、次年度・次々年度もすでに検討いただいている遺産があり、一方では、自然遺産を管轄されている環境庁とも「そろそろ自然遺産で開いてはどうか？」という相談もして来てはいますが・・・いずれにせよ、一定の役割を果たしたということでおしまいにするのは簡単なのですが、できれば各遺産1回ずつくらい、また年に1回は各地で集まる機会を維持するということも

大事だと思っていますので、特に周年事業をお考えのところなどは早めにご相談いただければと思います。

以外には宗像市さんからの「いい遺産の日」もそうですし、以前、姫路市からのご提案で始まった「世界遺産リレー催事」もそうなんですが、世界遺産地域が連携すれば必ずしも大きな予算がなくてもできることが色々あるように思いますので、全体で、あるいはどこどこ地域とこんなことをやって見たいというようなアイデアがあれば、成るならないは別にして、ぜひ気軽に出してもらいたいという風に思っています。

ご質問やアイデアは後ほどのディスカッションの場でお願いするとして、本年度予算についても先に説明させていただきます。

（議案６）

資料１２ページ、（議案６）本年度の予算につきご説明させていただきます。

収入の部としては左から２つめの枠が２０２５年度予算額です。

１の市町村会費が昨年予算同額の１４６万円。２の市町村共同事業費も同じく３５０万円。３の交流会費は昨年度決算とほぼ同額の１５万円。

４事業収入としては本年度は観光庁予算から９５２万円。これに７繰越金を合わせまして、１７８６万８６７２円というのが収入予算となります。

次に支出の部、資料１３Ｐですが、すみません、項目右から二つ目に２９２４年度予算額とあるのは２０２４年度の間違いです（笑）。

で、左から２枠目が２０２５年度予算でありまして、①の要望活動はやらない、というかやれないので０円。

②の会議費は本日の総会と資料製作費、事後のテープ起こしなど含めて３０万円。交流会は収入の部３の見合いで１５万円。その他として昨年度決算同様の１０万円を計上しています。

③のイベント費は計上せず、④の広報費としてはＳＮＳ関係８万円と国予算対応が９５２万円、その他として共同事業を活用させていただくのが３００万円。

⑤の事業推進費は今の所ゼロですが、国予算やサミット予算で引き落とさ

なかった分がここに入ってくる可能性はあります。以外に、⑥の調査研究費 5 千円。保守的経費としては⑦旅費交通費に 6 0 万円。観光庁予算の中に交通費が入っておりませんので、少し多めに昨年度決算と同額の計上となります。

⑧通信費は昨年度決算より少し少な目の 4 万円、⑨消耗品費はくたびれてきている機材がありますので、コピー代等も含め 9 万円、以外に貸金庫 2 4 1 2 0 円⑩です。⑪業務委託費として昨年度決算同様 1 6 0 万円の人件費を計上させていただいて、あとは⑫税や登記変更関係で 1 0 万円を計上し、以上の合計が 1 5 6 0 万 9 1 2 0 円。次年度に繰り越すのが 2 2 5 万 9 5 5 2 円となり、前年度予算とはほぼ同額となります。

あと、つけ加えておかないといけないのに資料 1 7 P の定款変更があります。定款の 2 条「主たる事務所」について、代表理事の交代がありましたので、長くお世話になった京都市文化財保護課からの変更が生じます。

ご説明の方は以上です。

熊倉代表理事

3 つのことを皆さんから審議していただかなければいけないのですが、その前にそれぞれの計画等々について若干の説明を皆さんからいただきましょう。まず今年サミットを開いていただきます。南砺市さんいらっしゃいますか？

南砺市（岩佐）

はい、皆様お疲れ様でございます。富山県南砺市でございます。

この度、白川郷・五箇山の合掌造り集落が財産登録の 3 0 周年を迎えるにあたり、その記念事業と致しまして、1 1 月 2 9 日 3 0 日に世界遺産サミットを南都市で開催させていただくことになりました。

文化財や観光の専門家と共に世界遺産の保全活用、継承について討論する内容となっております。

一般の市民の方々にもたくさん参加していただこうと思っておりますし、ぜひ皆様方のご参加もいただきたいというふうに思っておりますので、一つよろしく願いいたします。

熊倉代表理事

ぜひ皆さん南砺市にお集まりをいただきたいと思います。そうしましたら、次には「いい遺産プロジェクト」を呼びかけてくださいました宗像市さんお願いできますでしょうか？

宗像市（伊豆）

こんにちは。宗像市の伊豆です。いつもお世話になっております。

私も全然違う部署からあの世界遺産の担当者になって、早くも三年目を迎えているという状況になります。

会場の皆さんの方には井戸さんの方から「いい遺産プロジェクト」の、今年度の企画書というかチラシみたいな一枚ものを配布させていただいております。オンラインの方にはまだ手元には届いてないと思いますけども、今日の総会が終わってご承認いただければ、皆さんのところにもメーリングリスト等を使って詳しいものをお送りしたいと思っております。

この「いい遺産プロジェクト」については一昨年度までの全国一斉清掃っていうものから、事業内容を清掃活動だけには限定せずに、皆様の構成資産を守る活動、価値を伝える活動に拡充するっていう形で、事業のリニューアルをさせていただきました。

11月13日を語呂合わせで「いい遺産の日」という形で位置づけをさせていただいて、宗像市の方から各資産に呼びかけをさせていただき、皆さんを事業という形でつないでいきたいと思っています。

昨年度、清掃活動からリニューアルして様々な活動に拡充したということで、参加いただいた各地域の様々なアイデアに基づく活動をして頂きました。

具体的には清掃活動だけではなく、展示会の開催等をして頂いたり、参加自治体自体は17ということで一昨年度と変わらなかったんですけども、参加人数は2023年が3600名程度だったのが、昨年度は10万5千人ということになりました。もう本当に大幅な増加という形でですね、皆さんに取り組んでいただけたと思っております。

今年度も統一ロゴマークを作りましたので、それを活用しながら、参画していただける遺産、また地域をさらに拡大していきたいという風に思っております。

このプロジェクト自体は、新しい取り組みを各地域でしていただくというよりも、もう皆さん各地域ですでに実施をされている取り組みがあらうかと思えますので、そういったものを共通のプロジェクトっていう形で連動させた取り組みに育てていきたいなっていう風に思っております。

新しい何か取り組みをしてくださるのももちろんいいんですが、今皆さんがやられている資産を守る活動、清掃であるとか啓発活動、価値を伝える広報活動とかをされていると思いますので、その活動に対して11月13日を基準としてその前後で、取り組みをプロジェクトという形で位置づけていただければいいかなと思っています。

ですので予算的には、我々も別に特に皆さんのところに何か用意するというものもないですし、皆さんに何か用意してくださいということもありませんので、今やってるものをベースに取り組んで頂ければと思っております。

取り組みに関しては簡単に言うと、手続き的にはツーステップで考えております。まず、参加いただける団体の情報をいただいて、その団体に対してですね。まあのエントリーシートというので登録していただいて、こちらから、またさらに追加で、こういった活動をしますかっていうのを紹介させていただいて・・・そのまま皆さん各地域でそのプロジェクトに取り組んで頂き、実績報告して頂くという形で、先ほどから繰り返しになりますが、今やってるものをつないで大きく育てていく形のプロジェクトですので、どうぞご協力の程お願いいたします。

「いい遺産プロジェクト」のロゴマークと合わせて、登り旗をいくつか作りました。ご協力、ご参加いただける地域に対してお配りしたいと思っております。ただ、ちょっと数が限定になるので申し訳ないんですけども、先着順という形でお配りしたいと思いますので、ぜひ皆さん参画頂いて、先ほど井戸さんの方からありましたけど、21の遺産、またたくさん地域、団体にも広げていければと思っておりますので、ご協力をお願いします。

また何かありましたら、来週に多分なるとは思いますが、メール等で送らせていただきますので、何かありましたら私宛てにご連絡いただければと思いま

す。本年度もぜひぜひたくさんのご参加いただければと思っております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

加えて、いい遺産プロジェクトはまた別なんですけども。今年度で夏休みには海と神秘のカードラリーということで、県外の6施設にもご協力いただいてカードを配っております。もうすでに2施設については予定枚数に達して、もう配布が終了しているってというような形で大変好評を頂いてます。そんなカードラリーというのもやっておりますので、またそういったところもご参加・お声掛けいただければと思っております。

最後になりますけれども、沖ノ島の遺産も令和9年度に登録10周年を迎えますので、ぜひその際には皆さんとお会いするような機会を設けていきたいというふうに思っております。まだ今、事務局レベルで調整等を行っておりますけど、皆さんに集まっていいただけるような何か取り組みができればなという風に考えております。

その際にも、ぜひご参加いただければと思っております。

以上。宗像市伊豆からのご説明になります。どうぞよろしくお願いいたします。

熊倉代表理事

ありがとうございました。この間の豪雨で中津宮の大島が線状降水帯に重なったということで心配してたんですけども、被害はいかがでございましょうか。

宗像市（伊豆）

そうですね。結構、報道等にもあったように、構成資産がダメージを受けてる部分はやはりあります。お隣の福津市さんの新原・奴山古墳群の方も同じだと思います。けれども幸いにして大きなものにはなっていないので、今、文化庁や担当部署等含めて、どういった形で直していこうかっていうところを話し合ってるところです。皆さんをお迎えできるような形で。構成資産の保全等を図っていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

熊倉代表理事

はい、ありがとうございました。最初「いい遺産の日」に、どう清掃活動をするかということで、遺産をお持ちの市町村、いい意味で悩まれたと思いますが、幅広い意味で今まで取り組んできたことを１１月１３日を一つの焦点にしてやっていこうではないかと。

日本中の６７の市区町村２１の世界文化遺産がそれに向かっているということが日本国民に伝わってゆくことを想定してますので、頑張りたいと思います。それで、一昨年度から昨年度にかけて参加者が３０倍に増えたということです。ですので、今年もさらに３０倍増やして３００万人の皆さんが参加をするとニュースになるなあということで、各都道府県の主要メディアに、うちはこうやったんだということを流してもらって、共同通信社あたりのネットワークで全国に伝えていただき、みんなが向かってるよということが発信できると思います。

幸いにして、１１月２９日にサミットにありますので、今年の１１月は世界遺産月間なんだというぐらいの形で我々打ち出して３百万人の参加を、ぜひ宗像市さんが旗を振っていただいて、少しまた予算を増やしていただいて、皆さんに返す部分も考えていただいてなどと余計なことを考えております。引き続きリーダーシップをお願いいたします。

さて、昨今の課題として、オーバーツーリズム対応の話ございましたので、まず厳島神社のある廿日市市さんから後発言願いたいと思いますが、いかがでございましょうか。

廿日市市（空）

観光課の空と申します。現状みたいなどの紹介をさせていただけたらと思います。

ちょうど約２年前ですね。令和５年の１０月から宮島訪問税の徴収を始めております。その前１５年ぐらいかけて会議をしながら、そういった経過を経て、なんとか開始することができました。

いろんな懸念がありながらも、対応関係各所のご協力もあって、大きなトラブルもなく、皆さんからも特にこう不満の声とかもなくですね。本当にご理解いただいた形で納税していただいているという所になります。

当初は特にインバウンド外国人の方への徴収ということで、個別の対応みたいな所であったりとか。あと自動改札とか券売機みたいな所での少し混乱もあったんですけども、オペレーション的にもだいが慣れてきまして、かなりスムーズに徴収の方もできているという風に思っています。

今後の部分で行きますと、昨年宮島にはこれまでは最高の485万人ということで、本当に多くの方にお越しいただいて、訪問税の徴収税額についても、昨年は約4億円ぐらい入っているような状況になります。

で、使命としては、いただいたお金をいかに効果的に使っていくかって言ったことになります。皆さんから頂いた所をしっかりと、目に見える形で還元して、さらなる観光地の魅力であったり、満足度を上げていくっていうところにしっかり使っていきたいなど。それによって、世界遺産の宮島っていうところをしっかりと守っていくということにつなげていきたいというふうに考えております。以上になります。

熊倉代表理事

ありがとうございました。

次、インバウンド関係の対応について、紀伊山地の霊場と参詣道、那智勝浦の堀町長さんがこちらにお見えでございますので、全体を代表してお話をいただけますでしょうか？

那智勝浦・堀町長

那智勝浦町長の堀でございます。

那智勝浦町は紀伊山地の霊場と参詣の構成団体の一つです。紀伊山地の霊場と参詣道は三重県、奈良県、和歌山県三県にまたがってまして、あの熊野三山へのお参りする道、それと修験の道がそれぞれ世界遺産登録されました。登録11番目だったと思ですけども、昨年は世界遺産登録20周年でございまして、今年からは21年目ということになります。

で、この20年でどんなものが変わったかと言いましたら、海外の方が爆発的に増えてございます。那智勝浦町内だけで行くと宿泊はだいたい50万人ぐらいあるんですけども約2割、8万人から10万人ぐらいの方々が海外です。

全てが世界遺産の熊野古道を歩かれるかということでは必ずしもないんですが、本町に来られる方は那智勝浦大社にはほぼ必ず行かれますので、世界遺産登録によって、世界遺産を目当てに来られている面もあると言えるかもしれません。

熊野那智大社や那智の大滝は多い時には七割ぐらいが海外の方で埋まっています。熊野古道も場所によっては、海外の人しかおられないというような状況です。そういったことでは、決してオーバーツーリズムにはなってはおりませんけれども、海外の方を多く受け入れているところです。

加えて、今年の3月にあのアメリカのタイムという雑誌の2025年に行くべき場所。世界の49箇所選ばれました。で、49箇所のうちの 하나가。熊野那智大社、那智の大滝。日本ではもう一箇所、京都の任天堂ミュージアムが選ばれておりまして、世界遺産登録と真逆のようなすごいチョイスをされたなと思ったんですけども、やはりこれは世界遺産登録の効果があってのことではないか。

また今、万博が大阪で開かれてますけど、そのついでに勝浦に行くんだっていう方がよくいらっしゃるっていうようなことも聞いておりますので、そういった意味で、やはりこの世界遺産登録っていうのはすごくインパクトがあって、効果があるんじゃないかと思いますね。

これを継続していくためにどうすればいいかというようなことは例えばサインを多言語対応するとかはもちろんですけれど、お店の大将が英語を覚えたり中国語を覚えたりですね。いや、本当に感心するようなお店もございますから、そういったことが一番のおもてなしではないかなと思います。世界遺産登録をきちっと守っていくっていう保存の方にも十分力を入れる必要があるんじゃないかなって思っています。

現状と課題と言いますか、未来どうしていかなくてはいけないかっていうようなことは個人的な感想ですけども、以上でございます。

熊倉代表理事

ありがとうございます。紀伊山地全体の代表ということでお願いいたしました。オーバーツーリズムに対する対応などの議論の中で、組織のあり方も含め、民間の方の方から、ご意見をいただきたいと思っています。えー、宗田先生いらっしゃいますか？

宗田（京都府立大学）

先生 はい、います。

熊倉代表理事

今までの議論をお聞きになられてきて、少し中間的にまとめをいただけますでしょうか。

宗田（京都府立大学）

はい、今、オーバーツーリズムとか、インバウンドが紀伊山地含めていろいろ増えている。その増え方はそれぞれに異なっていると思うんですが、今日もちょうと別のところで京都市役所の方でお話をしました。

京都は宿泊客の6割以上が外国人ということになったようです。

日本全国では25%なんですね。で、もうこうなると世界遺産が本当に世界人類共通の遺産というフェーズに入ってきてる。日本人が日本人向けに世界遺産を語ってきたっていうのと違うフェーズに入った。

60%っていうことは、今晚も京都の街の中にちょっと仕事で出るんですが、フィレンツェ55%、ベネチア68%とかっていうレベルの都市に京都がなってるっていうことですよね。で、これがじわっと広がっていく。

世界遺産中心に、昼間も夜もその外国人の横で日本人が古い建物や景観を見てるっていうことになるわけです。

で、この時に私達こういう連携をして、世界遺産として必要な多分、世界平和のためにというユネスコの本来の目的に戻り、この平和な日本、日本文化っていうものを世界の平和のためにどう役立てていくかっていうような、議論なのだろうと思うわけです。インバウンドは観光公害というようなレベルで捉えるのではなくて、そういう視点で新しい時代に、どう世界人類共通の遺産としての世界遺産の新しいあり方を日本から提案できるのかっていうような視点で考えていけるといいのかなと思いますね。

そういう意味でこの連携の新しい取り組み。自治体同士の連携で何か新しい日本のあり方を模索することができないかと思っております。

すみません。突然のご指名だったんで、ちょっと変なこと言ったかもしれませんが以上です。

熊倉代表理事

先生なら何でもお答えいただければと思ひまして、前もって何ら連絡もしませんでした。ごめんなさい。

宗田（京都府立大） いえいえ。

熊倉代表理事

宗田先生が最初に描いてくださった絵に向かっては国や政治は動かないけれども、我々自身が、世界の人々をこう迎える時期が来たぞと…。しんどくても頑張ろうということが今の状況かもしれませんね。

宗田（京都府立大）

そう、世界情勢の方はむしろ当初より悪くなってるわけですよ。悪いって言わない方がいいかもしれませんが、イスラムばかり今のトランプばかり、ウクライナあたりでもいろいろあり、平和な時代が危うくなりつつある訳です。

その中で、日本も随分変わったかもしれません。

が、我々は世界遺産中心に、変わらない世界平和への取り組みっていうことをどうできるかっていうのをいろいろ考えて行くべき日々が続くのだと思います。世界にどう貢献できるかっていう議論を、ぜひまたよろしく願います。すみません。長くなりました。

熊倉代表理事

ありがとうございました。石見銀山の大国さん、来ていらっしやいますでしょうか？

大国（元・太田市教育長）

はい。

熊倉代表理事

今までのお話の中と組織をこれから強くすることを含めて、少し御意見をいただけますでしょうか。

大国（元・太田市教育長）

そうですね。あの、私も現場離れてからの期間があるので何とも言えませんが、先ほどまでのお話聞いてると、それぞれの世界遺産地域への来訪者の数のばらつきというのはあるので、その本質的なものに着目して、やってくる人に国内の他の世界遺産がどうなってるかという情報をどんなふうにして伝えてあげればいいのかといったことに集中すればいいのではないかなという気がするんです。

今までも共通の印刷物とか作ってるんですけど、そこをもう一工夫して地域連携会議で、なんて言うんですかね、他の日本の国内の世界遺産が情報が得られるような、何か仕組みができる。それを連携会議で作るんだというようなことができるといいんじゃないかなという、漠とした話ですけども。以上です。

宗田（京都府立大学）

あ、すいません。なんかね、私、あの口挟んで申し訳ないんですが、その深いところまで本質的なことを求めてこないような一般の、表面的な観光客の方

にも何かちょっと深く考えてもらえるような・・・だからこそ世界遺産っていう意味があるわけじゃないですか。

大國（元・太田市教育長）

なるほど。

宗田（京都府立大学）

ただ動物園に行ったり、ユニバーサルスタジオやディズニーランドに行くのとは違う訳ですよ。だから、なんかもうちょっと深い、コミュニケーションリテラシーを持って世界遺産を伝えないといかんわけですよ。初めて日本に来る人にも、あの世界遺産で日本の深さが分かった。まあディズニーランド・ユニバーサルスタジオでは分かんないけど。21の世界遺産に行ってみて分かったみたいなものが、世界遺産にはあるっていう状況を作らんといいかんわけで、21のどこにも観光客の数が増えさえすればいいなんて思っている所は一つもないと思いますけど、そういうレベルの話から、「質」について本当に議論する。となれば、一番質が高い場所が、一番深いようでありながら分かりやすいコミュニケーションリテラシーをもって伝え、世界平和に貢献できるような場所が世界遺産であると。

会場

っていうふうにするためにはどういう演出をしなきゃいかんのですかね？

宗田（京都府立大学）

どういうバッファゾーンを作らなきゃいかんのか？ どういうガイダンス施設があるのかみたいな、多分そういう話だと思うんですよ。だからみんなに分かるために英語にするとか、中国語にするとかってレベルではないと思うんですね。偉そうなこと言ってますみません。

会場

各地もいろんな工夫もなさると思いますけれど、全体として少しずつもう一歩、本質のところに皆さんが入っていく導入を。

宗田先生（京都府立大学）

我々が本質的にならなきゃダメなんですよね。

熊倉代表理事

その意味では世界遺産検定をされてる宮澤さんいかがでしょうか？ 今までのご意見等について

宮澤（世界遺産アカデミー）

突然振られてちょっとびっくりしているんですが、ありがとうございます。

うちがやろうとしているのは、やっぱり先生方もおっしゃっていただいたように、本質的なところをどう理解するか、ま、世界遺産って行ってみただけでもやっぱり楽しいんですけれども、まあそこをもう少し深く見たらもっといろんな理解ができるわけだし。で、その横のつながりっていうのは世界遺産、やっぱりあるのでそこら辺を出して行きたいと活動でしてしまして。

で、その、やっぱり学んだことを行ってみるだけじゃなくて、先ほどもちょっとご紹介いただいたんですが、クリーンツーリズムなどもやっているのも、その保全に実際に手を動かすっていうのをやっていくっていうのが、うちとしてやろうとしていることなんですよね。

先ほどの「いい遺産の日」の中でも出てきたものなんですけれども、やはり見て説明を聞くだけ、そこでお金を落とすだけかというのと、やっぱりそうではなくて、やっぱり保全のために自分の手を動かすっていうのがあるといいと思うんですよね。

海外に行くと結構皆さん、手を動かすってことを実際によくやってるんですよ。ボランティアでもやってますし。保全活動的なところで、まあお金も発生させながらやるってことも海外では実際してることなので、観光客の人が保全に実際に関わるようなものが広がってくるといいんじゃないかなというふうに考えてうちの活動はしています。すみません。

熊倉代表理事

まさに参加をするという意識を持っていただいて、「あなた自身が一緒にこの遺産を守り、活用しているんだという思いを抱いていただく。それを横につないでいく」ということが大切ですね。

本当に、「手を動かす」ということが大事ですね。これも今日の一つのキーワードかもしれませんね。

決議を取らなければなりませんので…。今年度予算と今年度の事業の方向、そして、定款変更も含めて、これらのことについてご異議等なければ、承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。自分たちで掲げておきながら、ある意味で高いハードルもあるけれども、「まあ隣も頑張っているんだから、自分の所でも頑張ろう」という横のつながりで参加する方に、手を動かしてもらい、足を動かしてもらい。そんな年にいたしましょう。

では、審議は一応これで閉じさせていただいて、あと30分弱の時間ですけども、せっかくの機会ですので、ここにいらっしゃる方もオンラインの方もご発言をいただきたいと思います。まず、この場に来てくださっていて、まだ私の方からお話をお願いしていない、釜石市の森さんから。

釜石市（森）

理事代理の釜石市・森でございます。宜しくお願いいたします。

今年度、釜石市の橋野鉄鉱山が含まれている明治日本の産業革命遺産が、10周年を迎えました。

7月に東京で全体の10周年記念のシンポジウムをやりまして。なんて言うでんすかね？ 全体としては一段落という形で、あとは式典をやっていくという格好になってると思います。ちなみに釜石の方も7月に。10周年事業のいたい大きいところは終わりました。

明治日本の産業革命遺産って全部で23遺産あって、変な話、自分のところは知っていても、他人のところは知らないっていう世界が結構多いのかなというのがあります。まあ3つの製鉄鋼、あと石炭・造船という形で3つのセクションがあって、そのつながりはあると思うんですけども、なかなか皆さん知らないというか、あと担当者もだんだん変わっていきまして、その辺の連携をまずもうちょっと強めながら・・・実はこの十年間で担当者変わってないのは私だけ？っていう恐ろしい世界になっています。だんだん取り残されているのかも知れないんですけど、そういった部分をまず考えて行かないといけないと思いますね。

あと、釜石に関して言いますと、岩手県にあるということで、世界遺産3つあるのは鹿児島県とかもそうけれども、文化遺産が3つというのは岩手と奈良だけなんですよね。

その辺のところを岩手県に頑張ってもらおうということで、今、岩手の3つの世界遺産ってことでいろいろと動いていただいております。岩手県内の学校の先生たちは、夏休み期間に研修にですね、3つの遺産を回ってもらおうとか、あるいは児童やガイドの交流会っていう形でいろいろやっております。

それで橋野が10周年ということで、3つの世界遺産の岩手世界遺産祭っていうのがあるんですが、その会場を釜石で今年はやっていただくということで・・・基本的には自分たちの市町村での盛り上がりに関してはうちと一戸と平泉の三つが各々で頑張ってやって、あの連携に関しては、岩手県がやるっていう住み分けをしながら、やらせていただいております。

宗田先生が先ほど言われた通り、世界遺産が始まった当時、まあ10年15年ぐらい前だとお国自慢のために世界遺産を目指すぜっていう感じだったんですけども、やっぱそれだけじゃあ駄目かなと。

やっぱ歴史にすがって、歴史があるんだよだけじゃだめだよ、っていうのは最近のトレンドとしてあるのかなという風に思いますので、やっぱりうちで

いけばものづくりとかですね。そういったところがなぜここできたかとか、そういったところも含めて、今年ちょうど戦後80年ですけども、あの艦砲射撃っていうのを受けて。釜石2回受けてるんですけども、そういった歴史的背景とかですね。そういったのも含めて教えていければなというふうに思っています。他の、厳島神社さんのような、見てすごい遺産というのではなく、知ってすごい世界遺産という形でやっておりますので、今後ともですね、いろいろとご協力いただきたいと思います。ちょっと長くなりました。以上です。

熊倉代表理事

岩手の二つ目でいらっしゃる。平泉町長さん、いらっしゃいます？

平泉町・青木町長

平泉町長の青木です。井戸さん申し訳ありません。今回、ウェブでの参加ということになりました。けれどもまずは総会の開催おめでとうございます。

先ほどお話ありましたけど、釜石は今年10周年ということで、平泉は来年がですね、世界遺産登録されて15周年という年になります。

今年の3月に実行委員会を組織して市内の様々な団体も含めながら、本年はプレということで特に今年の8月30・31日に、スマートインターの千百台の駐車場を活用させていただいて、奥州の各市で連携を組んで、世界遺産祭を開くことにしております。

来年が15周年ということになりますし、中尊寺本堂が900年という大きな節目の年でありますので、式典も含めながら記念事業として立ち上げようという、そういうことを様々、今起案しながら、プレで実行しつつ動いているところであります。

今後も世界文化遺産地域連携会議を中心としながら、我が町も一緒に進んでまいりたいと思いますので、今後ともなお一層のお力添えを賜りたいというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

熊倉代表理事

ありがとうございます。来年とても楽しみです。皆さんが参加されると思います。ここにいらっしゃる方の中で、元ナショナルグラフィックの糸永さん、海外のことでも結構でございますので。

糸永（アラスカ大学フェアモント校特別顧問）

まずは遅刻しちゃったことをお詫びします。今年は南砺市だっていうことなので、まあ何がお手伝いできるかなと思って聞いていました。

一つは富山の地方局で富山テレビに友達がいるんで、まあ一つそっちに情報を流すっていうのがあるかなと。それから、あの南砺市はですね、実はブータンのあの仮面舞踊団が日本で初めて講演した場所なんですよ。そういうことも、南砺市長の田中さんは元・村役場の事務方だった方で、今はもう市長になっちゃってるんですけど、僕の方から連絡するとかというのはあるかなと思います。

それから、地元出身議員で官房副長官やってる友人がいるので、こちらにとって不都合がなければ、僕の方から、まあ情報を知らせて一つよろしくっていうお願いぐらいはできるかなと思っています。そんなところでしょうか。

どうもすいません。人のつながり、特にやっぱリサミットを開く場所での人間のつながりはとても重要なので。

熊倉代表理事

PHP 研究所の大山さん、何かお感じになったことはありませんか？

大山（PHP 研究所）

PHP 研究所文化事業局の大山でございます。よろしくお願いします。

皆さんのお話聞いてると、その発足当初からなんかこうステージがだんだん上がってるなあという気がいたしました。

手前味噌な話になるんですけども、PHP 研究所では月刊誌で歴史街道という雑誌を出してまして、今の一代前の編集者が私なんですけれども、昭和の最後に創刊したんですね。で、その時にほかの出版社からも歴史雑誌があったんです。そこで歴史街道というのを創刊するにあたって、その時からずっと

「時代を見抜く座標軸」というキャッチフレーズをつけています。それが何かというと、単に歴史の知識を得るっていうだけではなくて、歴史の知識を得て、さらにそこから何か行動に移すだとか学んで、何かしら行動に移すと、そのための座標軸を持ちましょうということで、要は歴史を学ぶのではなくて歴史に学ぶということを中心にやってきた雑誌なんですけれども、何かこれ、世界遺産でも同じようなことが言えるかもという気がしました。

単にその世界文化遺産すごいんですよということで、知ってもらうのももちろん大切なんですけれども、そこから一歩進んで、それを知ったが故に、例えば今戦争が起こっているけれど、こういう文化を大切にするという気持ちをもっと育んでもらうとか、なんかそういうことができるより素晴らしいなというふうに感じた次第です。

すいません。あんまり具体的な話ができないんですけれど、まあ、あの具体的な部分はそれぞれの市区町村お持ちでございますし、それをやっぱり横にどうつないでいくか、縦軸につないでいくかと。古い言葉ですけれども、学びたい時にこれを習うというのはそういうことだと思いますし、温故知人ということもそういうことだと思います。

それをやってこそ、世界文化遺産地域連携会議だなという気がします。

熊倉代表理事

ネイキッドの久保哲矢さん、会を持続発展させていくために何かありませんか？

久保哲矢（ネイキッド）

皆さんこんにちは。ネイキッドの久保と申します。よろしくお願ひいたします。えっと、我々ですね。京都の様々なあの場所で京都市さんと共催でプロジェクトマップをさせていただいております。特に昨年は世界遺産30周年の記念の年としまして、二条城はじめ様々な場所させていただきました。私自身はご縁がありまして、沖縄サミットの時にパネリストとして参加させていただいて以降ですね、この会議に参加させていただいております。

我々日本文化、世界遺産を発信するっていうプロジェクトをお手伝いさせていただくことは非常に多くてですね。富岡製糸場でも斑鳩でもこのサミットのタイミングに合わせてプロジェクトマップをさせていただきました。

我々は世界遺産の専門家ではありませんので、今日はもう勉強させていただいているというのが実情でございます。

民間の立場からこの会議体に対してやっぱりこうしないといけないということを一つだけ申し上げたいと思うのは、やっぱり組織として強くするっていうのは、予算の話からもありました。私もそのようにとても感じておりました。やっぱり民間側がどうやってここをサポートしていくかっていうことを真剣に考える所かなと思っております。

先ほど来、先生方がこういう風に取り組めばいいんじゃないか？世界遺産、もっとこういう風にしていこうっていう取り組みのお話をいただいておりますが、それを実行するためにもやっぱり組織が強くないと、というのはあります。

で、行政さんや世界遺産をお持ちの皆さんというよりは、周りでそれをどうさらに大きく生かしていくかっていう民間側の観点が必要だろうと思って、そういうことをずっと考えております。まだ答えは出ておりませんし、実際に何ができてると言うことはないので、民間に参加されている方ですね、そういう意識でご参加いただけると、この会はもっとより良くなるのかなということを思っております。すいません。僭越ながらちょっと発言させていただきました。

熊倉代表理事

富岡と斑鳩で拝見させていただいて、それに地域の方がどうちゃんと関わっているのかということの大切さをしみじみと感じました。ありがとうございます。交通新聞社の中村さん、一言お願いします。

中村（交通新聞社常務）

中村直美と申します。井戸さんには大変申し訳なく浦島太郎状態で、この会場にも久しぶりに来ました。

私と世界遺産の関わりとしてはかれこれもう20年少しになるんですけれども、ちょうど紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産になった頃、弊社の「旅の手帳」という旅行雑誌の編集を担当しておりました。また今年出版の方の部署にも関わることになりましたので、ちょっと何かできないかなと。

いずれにしても、皆さんいろんな自治体の方がこうやって集まって、まあご苦労多いことを共有できるだけでも、とてもいいなというふうにあの感じながら、この一時間、聞かせていただきました。

熊倉代表理事

ありがとうございます。またぜひいろんなプログラムを組んでください。では、野々村さん。

野々村（日本地図センター）

一般財団法人の日本地図センターというところに属しています、野々村と申します。この会は本当に長い間、関係させていただきまして。ただ本当に一個人として、まあ、野次馬という感じですが、参加させていただいています。

ただ、今日も那智勝浦町長さんとか平泉町長さんとかの話は本当に面白いって言いますかね。ああそういうこともあったんだなあということを感じさせていただきました。

会の運営についてはここまで、本当にこの会は井戸さんとか、ま、本当にボランティアの方々が支えてる。そこが素晴らしいけれども、また危ういところかなとも感じているところです。

私本当にほとんど貢献してないんですけども。過去にはあの世界遺産への詳細地図入りホームページですね。それから何といっても前京都市長の門川さんのご協力で、京都駅地下街で世界文化遺産をテーマにした地図展で、あの時はまだ12とか13とかそんな数だったかもしれませんね。まあ、そんなことがありました。

地図について言うと、いろんな地域の紹介をと言いますか、あるいは地域の本当の特性を表すにはなかなかいい一つのメディアではないかと思っておりまして。まあ今後とも、もし何かご縁がありましたら、本当に全国の皆様とまたお付き合いをさせていただきたいなと思っています。ありがとうございます。

熊倉代表理事

後藤先生いらっしゃいますか？

後藤（工学院大学）

後藤と申します。特段まあ言うことはないんですけども、先ほど釜石の方が言われてましたが、先日、明治日本の産業革命遺産の十周年でかなり盛大に行われていました。その各地でやられている行事と連携するだけでも、まだずいぶんとやれることがあるんじゃないかなと思ったのが一つ。

もう一つは、明治日本の産業革命遺産の場合にはまあいろんな問題があるということもあって、海外専門家のモニタリングが結構厳しく入っていて、その対応がすごく大変なんですね。これ別に明治日本だけではなくて、世界で言うとりバプールとかドレスデンが世界遺産返上したり、世界遺産ではないですけど、福井の勝山がジオパーク返上したり、最近ちょっと専門家のモニタリングが行きすぎてるんじゃないかところっていうのが随分あって。

で、そういう問題は各市町村すごく気をつけておかないといけないんじゃないかなと。観光公害じゃないですが、自治体とかの皆さんはすごくやってるのに、海外からたまにきた専門家にとってみるとすごく、なんかひどい課題があるように言われてしまうっていうですね。これはすごく気をつけていかなきゃいけないなと。日本の皆さん真面目なんで、海外の専門家に言われると非常にすごい細かく対応しちゃうせいで、余計、彼らは言っちゃうっていうですね、なんかこう逆効果を生んでるんじゃないかなと思うところが時が多々あるものですから、そのそういった点もこの会で情報を収集することは重要かなというふうに思いました。以上です。

熊倉代表理事

どういう状況であったかということをお互い情報を横に持っているだけで対応はずいぶん変わります。ありがとうございました。

五時半を回ってきたので、一回閉めるということで、井戸さんと一緒にいろんなことを背負ってくれていた島川さんと岡井さんから一言お願いします。まずは岡井さんの方から、ご自分の所の活動のPRも含めて、お願いします。

岡井（日光門前町づくり）

岡井でございます。去年の総会で事務局次長拝明しまして、総会には毎年参加申して来てるんですけども。設立当初から井戸さんにお声掛けいただきまして、私も学びながらここまで一緒に活動させていただきました。

今日も色々なお話がありまして、行政の方、それから先生方、いろんなお話ありましたけれども、それから民間事業者さんからのお話もありました。

私自身は日光の駅から世界遺産日光の社寺までの間の目抜き通りでカフェをやっております。まあ本業は都市計画とかまちづくりのコンサル。あとは自分のまちづくり NPO でやってるといのはあるんですけども、カフェもやってまして、さっき特急に乗るお昼まで、観光の方々相手にコーヒーとかお茶を入れてた身分でございます。

観光と一口に言っても深いなあと思いながら日々コーヒーを入れてるんですけども、コロナが明けてどーっと外国のインバウンドの方いらっしゃって、まあ今はちょっと落ち着いた感じもあるかなと思います。

国が観光客数の増加を目指してるっていうのは分かるんですが、日本やすいで、とりあえず行っちゃえて感じは確かに少しずつですが変わって来た。

コーヒーを入れながらそういうことも伝わってくる日々です。

リスペクトという言葉はちょっと重いのかもしれないですけども、やっぱり今日、これまでにしているキーワードの中で少し深く考えていただくとか、コミュニケーションリテラシーっていうお話も宗田先生からありましたが、来ていただく側受け入れる側も両方、まあ幸せを目指す形って何かなあというふうに思っております。

あと、適正量って言ったりしますけれども、そこがなかなか難しいところかなと。今、どういうところで何に火がつくかわからなくて、基本的には依然として変わらずまあ集中型の観光かなと思っておりますが、ただ一つ言えるのは何か少し深く考えていただくとか、興味を持っていただくとか、感動を持ち帰ってもらえるとか・・・そのあり方は何かなと思いながら、日光のまちづくりをやっております。

連携会議も 15 年が経って節目というか、ここがメタモルフォーゼの真っ最中という感じになるのかなと思いますけれども、私もできる限りご協力できればと思っています。よろしくお願いいたします。

熊倉代表理事

ありがとうございました。では皆さんとお約束していただいた時間がちょうど終わりますので。今回の会議のまとめと最後のご挨拶を島川さんをお願いします。

島川（神奈川大学）

もう時間も過ぎておりますので、簡潔に行きたいというふうに思います。神奈川大学の島川でございます。

本当にこの一年間、井戸さんが倒れられて、で、門川市長が退任されて、本当にどうなるかというふうに私も心配しておりました。ですけれども、事務局は岡井さんが次長に就任していただき、そして代表理事に熊倉先生がなっただけで、本当この世界遺産地域連携会議が次のフェーズに入ったなという風に思っております。

いろんな意見があると思います。属人的過ぎるんじゃないかとか。結局その属人的なことがこの一年のことになったんじゃないかっていう風な話もあります。ただ、この15年、ここまでこの会議が続いてきたのは、やはりその一人一人の魂がここにこもっていたからこそここまで来たんじゃないかって。これが一人一人の属人的なものが消えてしまったら、多分次の15年は続かないというふうに思います。やはりここで一人一人の魂っていうことをもう一度あの我々みんな考えていきながらやっていきたい。

今日は15年ずっとやられて来た方はもちろん、途中で参加していただいた方にもきらりと光るお話を頂きました。

先ほどあのネイキッドの久保さん。私も沖縄サミットの時のことを今でも覚えております。新しい若い力が入ってきた。こういう風になるんだっていうのを実感した。本当にその時を思い出しました。こういう風に新たな人にどんどん参加してもらいながら、魂のある連携会議をこれからも作っていきたい、そういうふうに思っております。

宮澤さんの言葉でもありましたが手を動かす。この言葉がやはり一番大きい言葉じゃないかな。口を動かす人はいっぱいいる。でも、手を動かすっていうことをそれぞれがやっていかなければ次の15年は持たないんじゃないかっていう風に思います。私も今ちょっと大変な作業を抱えておりますけど、これが終わったら、両手両足を動かせるようになるという風に思っておりますので、是非、これからもこの会議が更に更に発展していけるように、みんなで手を動

かしていこうではありませんか？　ということを申し上げて、私の挨拶に代えさせていただきたいと思います。

熊倉代表理事

ありがとうございました。皆さんの決意だと思います。ご発言いただけなかった方、時間の関係で申し訳ございませんでした。私の進行の勝手際ですが、これを機会に直接に会う、オンラインで意見を交わし合う、それぞれの所で様々な事業を行っていることについて、相互に学びあって、他の地域へ行ったら一国民として手を動かす。そして学びに行ったことを戻して、自分の所でより多くの人々に手を動かしてもらう。そんな一歩を今日から生み出してまいりましょう。皆様、ありがとうございました。

井戸（事務局長）

それではこれで世界文化遺産地域連携会議の2025年度総会を終わらせていただきますと思います。交流会ご参加の方はしばらくここに残して下さい。皆さん、今日はどうもありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。